

# 経済・金融フラッシュ

No.07-179 2008/3/31

## 鋳工業生産 08年2月～1-3月期の大幅減産は確実に

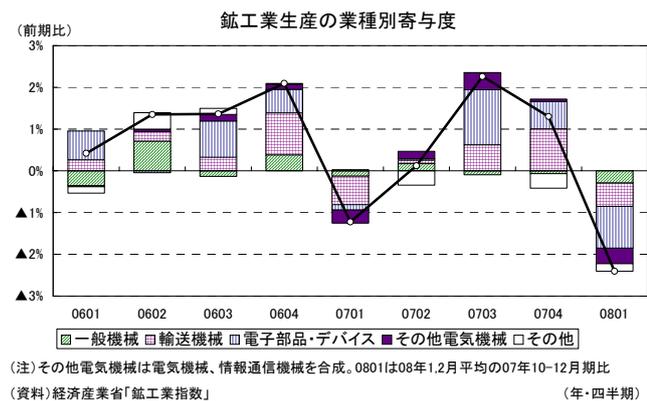
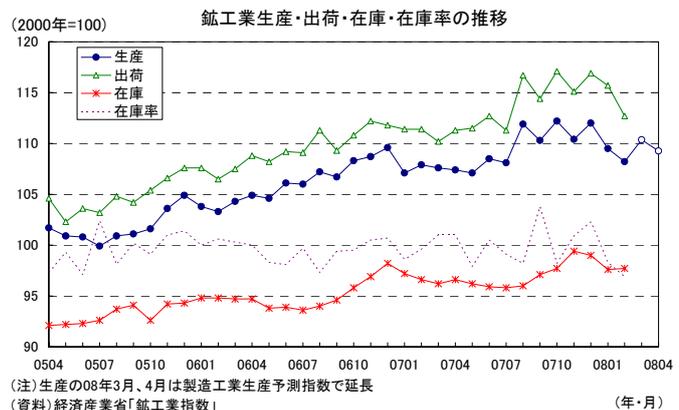
ニッセイ基礎研究所 経済調査部門 シニアエコノミスト 斎藤 太郎  
TEL:03-3512-1836 E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

### 1. 生産指数は2ヵ月連続で大幅低下

経済産業省が3月31日に公表した鋳工業指数によると、2月の鋳工業生産指数は前月比▲1.2%となり、1月の同▲2.2%に続き大幅な低下となった。事前の市場予想（ロイター集計：前月比▲2.1%、当社予想は▲2.4%）は上回る結果となった。出荷指数は、前月比▲2.6%と2ヵ月連続の低下、在庫指数は前月比0.1%と3ヵ月ぶりの上昇となった。

2月の生産を業種別に見ると、07年後半の生産を牽引していた電子部品・デバイスが液晶素子、半導体集積回路の減少などから前月比▲4.1%（1月：同▲3.8%）と2ヵ月連続で大幅な低下となった。一方、1月に大幅に低下した一般機械（1月：前月比▲2.3%→2月：同2.5%）、電気機械（1月：前月比▲4.3%→2月：同0.7%）は、その反動もあって上昇した。速報段階で公表される16業種中、10業種が前月比で上昇（6業種が低下）となった。

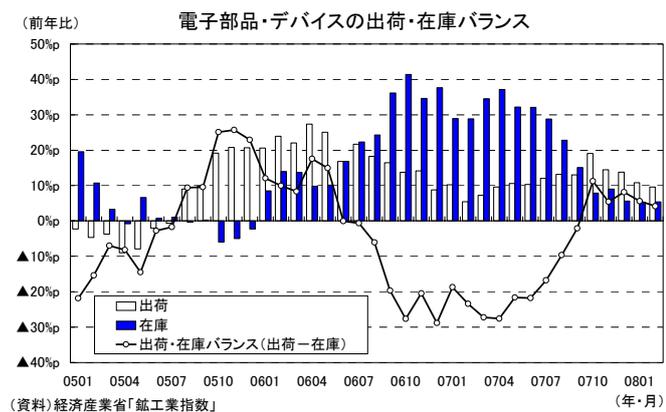
設備投資のうち、機械投資の一致指標である資本財出荷（除く輸送機械）は、1月の前月比▲2.3%に続き、2月も同▲0.9%の低下となり、1、2月平均では07年10-12月期よりも▲3.2%低い水準にある。GDP統計の設備投資は、07年10-12月期には前期比2.0%と高めの伸びとなったが、08年1-3月期は急減速する可能性が高い。



## 2. 電子部品・デバイスの出荷が大きく落ち込む

電子部品・デバイスの在庫指数は前月比 2.7%と 2 ヶ月ぶりの上昇となり、前年比でも 5.4%と積み上がり幅が若干拡大した（1 月：同 5.2%）。出荷指数は前月比▲5.2%と 4 ヶ月連続の低下、前年比では 9.6%の上昇（1 月：同 10.8%）となった。出荷・在庫バランス（出荷・前年比－在庫・前年比）は 4.2%ポイントとなり、1 月の同 5.6%ポイントからプラス幅が縮小した。電子部品・デバイスの在庫調整はいったん終了したと見られていたが、これまで好調が続いてきた IT 関連財の輸出の伸びは頭打ちとなっており、これに伴い出荷指数は直近 4 ヶ月で▲10.7%の急低下となった。

在庫の積み上がり幅自体は小さいため、大幅な調整に陥るリスクは低いと考えられるが、昨年後半のように電子部品・デバイスが生産の牽引役となることは期待できず、むしろ再び下押し要因となる可能性が出てきた。



製造工業生産予測指数は、3 月が前月比 2.0%、4 月が同▲1.0%となった。予測指数を業種別に見ると、米国に続き EU 向け輸出も減少に転じた輸送機械の減産計画が目立っている（3 月：前月比▲1.6%、4 月：同▲4.6%）。2 月までの生産指数を、3 月の予測指数で先延ばしすると、1-3 月期の生産指数は前期比▲1.9%の低下となる。1-3 月期の鉱工業生産が大幅な減産となることはほぼ確実となった。

2 月の生産指数を 4 月まで先延ばしすると、4 月の水準は 1-3 月期（見込み）比で▲0.1%とほぼ横ばいであり、現時点では 4-6 月期の鉱工業生産の方向性は見極めにくい状況にある。これまで好調が続いてきた輸出の動向が生産の先行きを大きく左右する展開が続くだろう。

(お願い)本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。

(Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載)